

「第2次菊池広域連合地球温暖化対策実行計画」に基づく
令和4年度分実施状況及び目標達成状況の報告

菊池広域連合事務局総務課

1.本計画について

地球温暖化対策推進法第21条第1項に基づき、地球温暖化対策計画に即して、菊池広域連合が実施している事務及び事業に関し、省エネルギー・省資源、廃棄物の減量などの取組を推進し、温室効果ガスの排出量を削減することを目的として令和3年2月に策定しております。

2.報告について

本計画の「6 実行計画の推進体制」において、事務局長を計画の推進責任者、事務局各課長と消防本部総務課長を推進担当者とし、毎年度、推進責任者及び推進担当者が出席する会議において、取組の実施状況及び目標の達成状況を報告することとなっております。

3.令和4年度各施設のCO2排出量

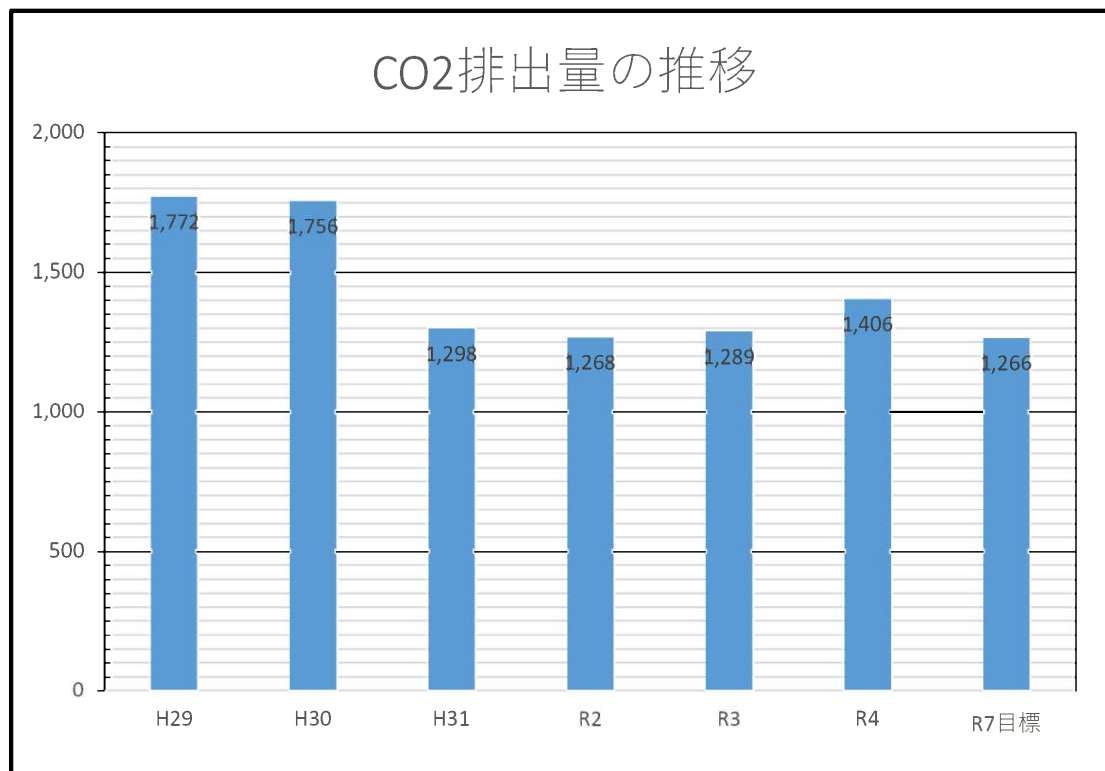
報告の対象となっているのは、事務局所管施設が「クリーンセンター花房」、「菊池火葬場」、「大津火葬場」、「事務局公用車」、消防本部所管分が「消防本部及び南消防署」、「北消防署」、「西消防署」、「泉ヶ丘消防署」となっています。

これらの施設における、令和4年度中の使用燃料の量及び使用電力量から算出した二酸化炭素（CO2）排出量が、以下の表に記したものです。

施設名	R4		比率	R7目標
クリーンセンター花房	燃料	148	653	46.45%
	電気	505		
菊池火葬場	燃料	203	220	15.63%
	電気	17		
大津火葬場	燃料	147	159	11.30%
	電気	12		
消防本部 (南消防署含む)	燃料	63	143	10.17%
	電気	80		
北消防署	燃料	50	95	6.77%
	電気	45		
西消防署	燃料	35	72	5.10%
	電気	36		
泉ヶ丘消防署	燃料	37	62	4.40%
	電気	25		
事務局 (公用車のみ)	燃料	2	2	0.18%
燃料計	686 tCO2/L		48.78%	
電気計	720 tCO2/kwh		51.22%	
計	1,406		100.00%	1,266

4.これまでのCO2排出量の推移

	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R7目標
排出量	1,772	1,756	1,298	1,268	1,289	1,406	1,266



5.今後の取組

令和4年度の二酸化炭素排出量は3.のとおりとなっており、前年度の令和3年度から117 tCO₂増加しております。

主な要因としては、「クリーンセンター花房」のA重油及び「菊池火葬場」の灯油使用量が、前年度から増加しておりました。

クリーンセンター花房では、ボイラー設備入替に伴う容量の増加と、設備を微生物の活動に必要な温度を保つためにより多くの燃料を使用したことが影響していると考えられます。菊池火葬場は、火葬件数が前年度から182件増えて1,199件あったことに伴い、燃料の使用量が増加したものと考えられます。

計画の見直し時期として定めた令和7年度の排出目標に対しては、さらなる排出量の削減が求められることとなります。そのためには、改めて計画の「5.目標達成に向けた取組」を着実に実行していくことが必要です。今年度は、菊池環境保全組合との統合に伴う本計画の改定を実施しており、対象施設は増加することとなりますが、組織全体で削減に向けた取組を継続してことが求められます。

【旧菊池環境保全組合分】

年度別温室効果ガス総排出量（数値で表したもの）

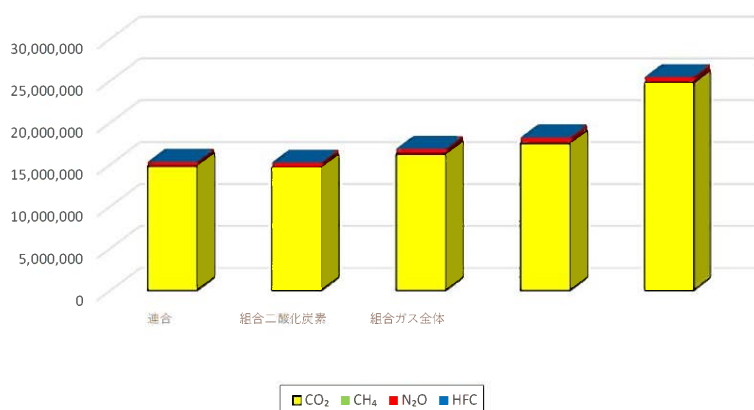
単位：kg-CO₂

年度	目標値	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
二酸化炭素 (CO ₂)	14,815,150	14,644,178	16,267,839	17,497,698	24,750,222
メタン (CH ₄)	936	1,311	1,593	2,015	3,877
一酸化二窒素 (N ₂ O)	512,148	603,590	614,469	740,265	715,325
ハイドロフルオロカーボン (HFC)	76	72	72	72	86
計	15,328,310	15,249,151	16,883,973	18,240,050	25,469,509
目標値に対する割合 (%)		99.5%	110.1%	119.0%	166.2%
		(目標値77)	(-)	(-)	(-)

令和4年度の旧菊池環境保全組合分の温室効果ガス排出量は25,469,509kg-CO₂となり、前年度から増加し、目標値をクリアすることができませんでした。

令和3年度から処理区域が菊池市全域に広がったことに加え、令和4年度は二酸化炭素及びメタンの排出量が増加しており、これは特に一般廃棄物排出量におけるプラスチック類の量が増えたことが要因と考えられます。推計値での結果ですが、プラスチック類の混入が多くなっている状況であり、適切な分別の周知が必要です。

経年変化図



温室効果ガス内訳表

ガスの種類	発生元	排出量	比率(%)
二酸化炭素 (CO ₂)	燃料の使用 (自動車以外)	397,443	1.56
	自動車の燃料	94,821	0.37
	電力消費	192,198	0.75
	一般廃棄物焼却炉	24,065,760	94.49
	小計	24,750,222	97.18
メタン (CH ₄)	自動車の走行	1,975	0.01
	一般廃棄物焼却炉	1,003	0.00
	浄化槽	900	0.00
	小計	3,877	0.02
一酸化二窒素 (N ₂ O)	自動車の走行	1,603	0.01
	一般廃棄物焼却炉	713,303	2.80
	浄化槽	418	0.00
	小計	715,325	2.81
ハイドロフルオロカーボン (HFC)	HFC封入カーエアコン利用分 (HFC-134C)	86	0.00
合計		25,469,509	100.00

■二酸化炭素 (CO₂)

物を燃やしたり、生き物が呼吸をしたりするときに排出され、人間の生活や生産活動に密接に関係しているものです。石炭や石油など、化石燃料を燃やすことで大量の二酸化炭素が発生します。

■メタン (CH₄)

生ごみなどの有機物が腐るときに発生します。このガスは、天然ガスの主要な成分で燃料としても使われます。温暖化効果は二酸化炭素の25倍になります。

■一酸化二窒素 (N₂O)

日常的な活動では、焚き火や車の走行、農業では、家畜糞尿や堆肥、工業的には、重油の燃焼などさまざまな状況で発生するもので、ごみ焼却施設からも発生します。温暖化効果は二酸化炭素の298倍になります。

■ハイドロフルオロカーボン (HFC)

オゾン層破壊物質CFCの代わりに使われるようになった、一般に代替フロンといわれる物質です。ここでは日常的に使用する自動車のカーエアコンについて、HFC-134aを算定対象としています。オゾン層は破壊しませんが、温暖化効果は二酸化炭素の1,430倍になります。